

## 附属資料3) 過小規模（複式学級）のメリット・デメリット

### 複式学級とは

小学校の場合、二つ以上の学年を合わせても16人以下（1年生を含む場合は、8人以下）となる場合に編制した学級をいう。

通常は、異なる学年の児童が一つの教室で一人の先生から同時に授業を受けるため、一方の学年が指導を受けている間、もう一方の学年は自習課題等をすることになる。

今治市では、市費で学習アシスタントを配置し、一つの学年に対して一人の教員が授業を行うようにしているが、担任が二つの学年全ての授業を行うことができないので、「児童の学習理解度が分かりづらい」「授業中の様子を把握できない」といった不都合も出ている状況である。

	メリット	デメリット
学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>●児童の一人一人に目が届きやすく、きめ細やかな指導が行いやすい。 （人数が少なく、マンツーマン指導が可能）</li> <li>●施設、用具を十分に使うことができる。</li> <li>●上級生の勉強を知ることができる。</li> <li>●上級生は下級生へアドバイス等を行うことで自己有用感を感じる機会が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●一人一人の児童に大人の目が行き届きすぎることにより、子どもが甘えやすくなったり、疲れてしまったりする。</li> <li>●多様な意見が出にくい。</li> <li>●出来ない授業が生じる（体育種目、グループディスカッション）。</li> </ul>
行事	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校行事では、一人一人の個別の活動機会が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●運動会や文化祭などの集団的な学校行事で、種目等の制約が生じる。</li> </ul>
人間関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>●相互の人間関係が深まりやすい。</li> <li>●異学年間の縦の交流が生まれやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●人間関係や相互の評価等が固定化される。</li> <li>●切磋琢磨する機会が少ない。</li> <li>●高学年の複式学級では、下の学年が少し窮屈に感じる一方で、年上の学年への甘えも生じやすい。</li> </ul>
保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>●保護者間の連携が図られやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●PTA活動における保護者一人当たりの負担が大きくなりやすい。</li> </ul>

※市内小学校教職員からの聞き取りを基に今治市教育委員会事務局が作成